



Sustainability Report 2023



トリニティ工業株式会社

トップメッセージ

テクノロジーで地球にやさしい未来を目指します

地球温暖化問題や、生産活動による廃棄物問題、事業活動による自然環境への影響は、我々が企業活動を進めるうえで重要な課題となっています。当社では、“テクノロジーで地球にやさしい未来へ”をスローガンに、熱・水・空気の総合エンジニアリング会社として、カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーの実現と持続可能な地球・社会へ貢献してまいります。

私たちの主要顧客である自動車業界においても、カーボンニュートラル達成目標年の前倒しや、再エネ導入拡大など、地球温暖化対策やサーキュラーエコノミー、自然共生、SDGs/ESG に対する取り組みを加速しています。社会に必要とされる会社であり続けるためには、こうした社会課題への解決の提供は必須であり、私たちならではの革新技术の提供で社会課題の解決を進めてまいります。

当社の設備部門では、多くのエネルギーや水資源を必要とする塗装工程の景色を変え、環境にやさしい省資源・省エネルギー型の設備・機器を開発・提供することが、私たちのミッションです。近年の主な成果としては、

- ・塗着効率 95%以上の超高塗着エアレス塗装技術の開発による、未塗着塗料の画期的低減
- ・段ボールフィルタを用いた、非常にコンパクトなドライブース
- ・ドライ化による、除湿不要な空調リサイクルの実現などがあり、こうした技術の実装により自動車塗装ラインの CO₂ 排出量を約 60%低減したことが高く評価され、昨年、トヨタ自動車殿と共同で、生産工学分野では最も権威あるとされる「大河内記念生産特賞」を受賞することができました。

また、塗装関連技術を活用した、自社工場での自動車部品製造ビジネスでは、2025年に「CO₂ 排出量 25% 削減（2013 年比）」の目標に向け、不良低減など「ものづくり改善」や、革新的な省エネ技術の開発、そして、オンサイト太陽光発電を含めた、再生可能エネルギーの導入など多面的な取り組みを進めております。

この他にも

- ・廃棄樹脂部品のリペレット化による再利用
- ・工場排水管理や、化学物質の生物への影響調査など、自然と共生したものづくり

などに取り組み、技術の力で持続可能な地球・社会の実現に貢献していきます。

当社は、昨年発表した「サステナビリティ方針」に掲げたように、当社に関わる全ての方々の幸せが広がるよう、「環境貢献」に加え、「豊かな社会づくり」「ガバナンス」に積極的に取り組んでまいります。

こうしたことを踏まえ、これまで「環境報告書」として刊行してきた本レポートを、本年度より「サステナビリティレポート」とし、報告内容を拡充することといたしました。

ステークホルダーの皆様への情報提供の、一段の充実になればと考えております。

まだまだ取り組み不十分なところが多いと存じております。

皆様方のご指導、ご支援を、心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長

玉本 利明

目次

トップメッセージ	01
目次	02
会社紹介	03
トリニティ工業のサステナビリティ	05
サステナビリティ方針	
推進体制	
取り組むべき課題	
環境	
トリニティ環境方針	07
■ 設備部門 環境に配慮した設備開発と展開	08
塗装工程と主な環境技術	
環境に配慮した設備開発と提供で、お客様の CO2 低減に貢献	
■ 自動車部品部門 自動車部品生産における環境負荷低減活動	10
ISO14001 を活用した環境マネジメント	
自動車部品部門の環境取組プラン	
工場カーボンニュートラル ロードマップ	
環境取組の結果	
オール電化塗装ラインの新設による CO2 排出量実質ゼロの実現	
太陽光発電設備の設置	
サーキュラーエコノミーの取り組み	
自然共生の取り組み	15
コンプライアンスと環境リスク	16
環境啓発活動	17
社会	
人材	18
労働安全衛生	19
健康	20
社会貢献活動	22
ガバナンス	
コーポレートガバナンス	24
コンプライアンス	
リスク管理	
グループ管理活動	
第三者意見	25

会社紹介

会社概要

創立	1980 年 7 月 1 日
本社所在地	愛知県豊田市柿本町 1-9
資本金	13 億 1,100 万円
売上高	連結：290 億円 単体：249 億円（2023 年 3 月期）
従業員数	連結：962 名 単体：773 名（2023 年 3 月 31 日現在）
事業内容	「塗装プラント」「塗装システム」「産業機械」の設計、製作、施工 「自動車部品」の製造

事業所

本社



豊田工場



三好工場



東京支店 大阪支店 東北営業所 田原営業所 九州営業所

主な関係会社

国内

日本

株式会社トステック 株式会社メサック
株式会社建築設備エンジニアリング モスニック株式会社

海外

中国

得立鼎塗装設備（上海）有限公司
Trinity Coating Systems (Shanghai) Co., Ltd.
〈上海〉〈天津〉〈広州〉

中国

東莞佳立汽車飾件有限公司
Dongguan Karyu Automotive Trim Co., Ltd.

インド

Trinity Coating Systems Ltd.

マレーシア

T & T Venture Sdn. Bhd.

アメリカ

Industrial Tech Services, Inc.

台湾

台湾得立鼎股份有限公司
Taiwan Trinity Industrial Corp.

タイ

Thai Trinity Co., Ltd

タイ

Trinity Asia Pacific Co., Ltd.

インドネシア

PT. Trinity Engineering Indonesia

会社紹介



事業紹介

トリニティ工業は、設備部門と自動車部品部門の2つの事業部門で活動しています。

設備部門

自動車をはじめ、鉄部品・アルミ部品・樹脂部品・住宅部品・航空機部品など多種多様な分野の塗装設備・塗料供給設備・塗装機器・乾燥設備等のプランニング、設計、製作・据付、アフターサービスを一貫して手掛けています。

塗装プラント

塗装工程の入口から出口まで、最新の環境技術でご提案いたします。



前処理装置



電着装置



塗装ブース・空調装置



乾燥炉

塗装システム

塗料供給システム

塗料吐出量を制御して塗装の膜厚を調整したり、塗料用・洗浄用バルブにより色替え作業を行い、様々な塗色を塗装することができます。



塗装ロボットシステム

塗装品質の安定化、生産性の向上を図ります。



塗装機

用途に合わせた様々な塗装機をご用意しています。



ix 塗装機



非静電バルブ



自動エアガン



カラーチェンジ
バルブ



モジュール CCV



フラッシュャブル
ギアポンプ

自動車部品部門

環境に配慮した「Tri-D³eco」を主軸に内装および外装部品の成形と塗装を手掛けており、成形・加飾・組付けまでを一貫して対応しております。

企画から納品まで一貫生産体制で、お客様の理想を形に。



主な製品

内装部品（塗装・水圧転写・レーザー加飾）



センタークラスターパネル



ステアリングホイール



コンソールパネル



スイッチベースパネル

外装部品（塗装）



ロッカーモール

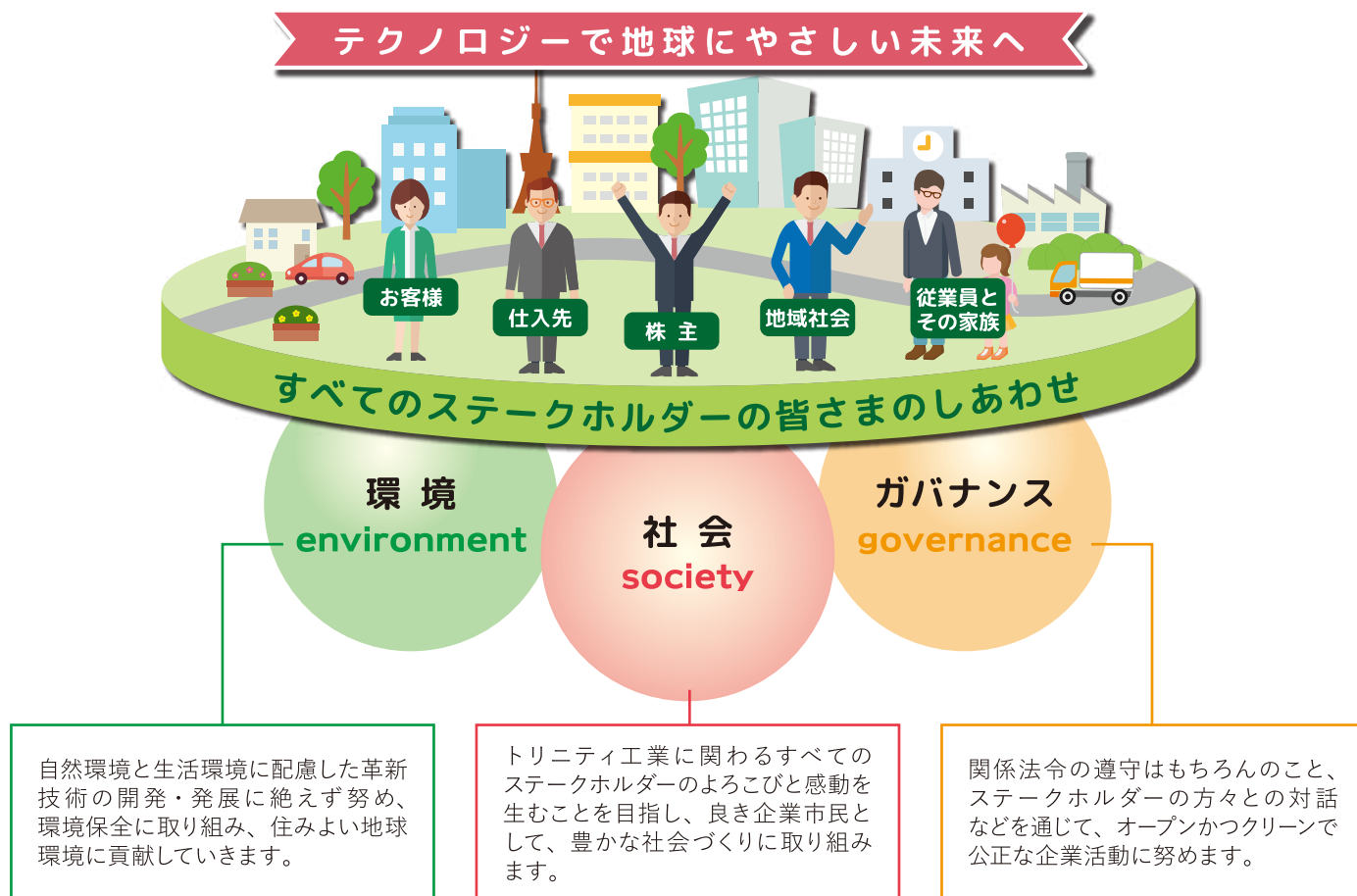


フロントグリル

サステナビリティ方針

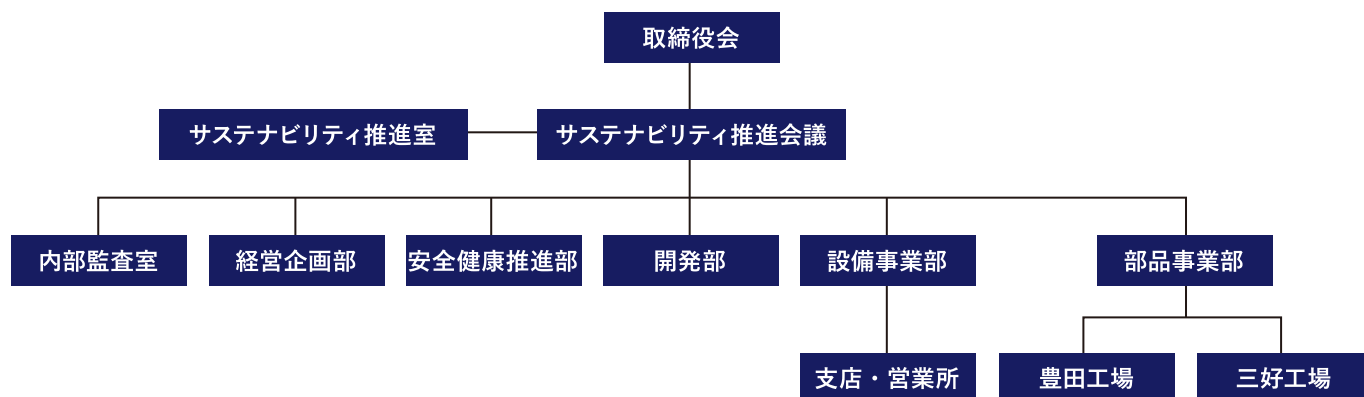
私たちは、社是「信頼と創造」のもと、安全・品質・お客様第一を大切にした企業活動を通じて、社会に必要とされる会社を目指しています。熱・水・空気の総合エンジニアリング会社である私たちだからこそ提供できるテクノロジーで、地球にやさしい未来へ貢献すること。

そして、ともに働く多様な人材が SDGs の理念に共感し、自ら考え行動すること。これらの取り組みを通して、現在から将来にわたり、私たちに関わるすべての皆さまのしあわせが広がり、持続可能な発展につながるよう努力してまいります。



推進体制

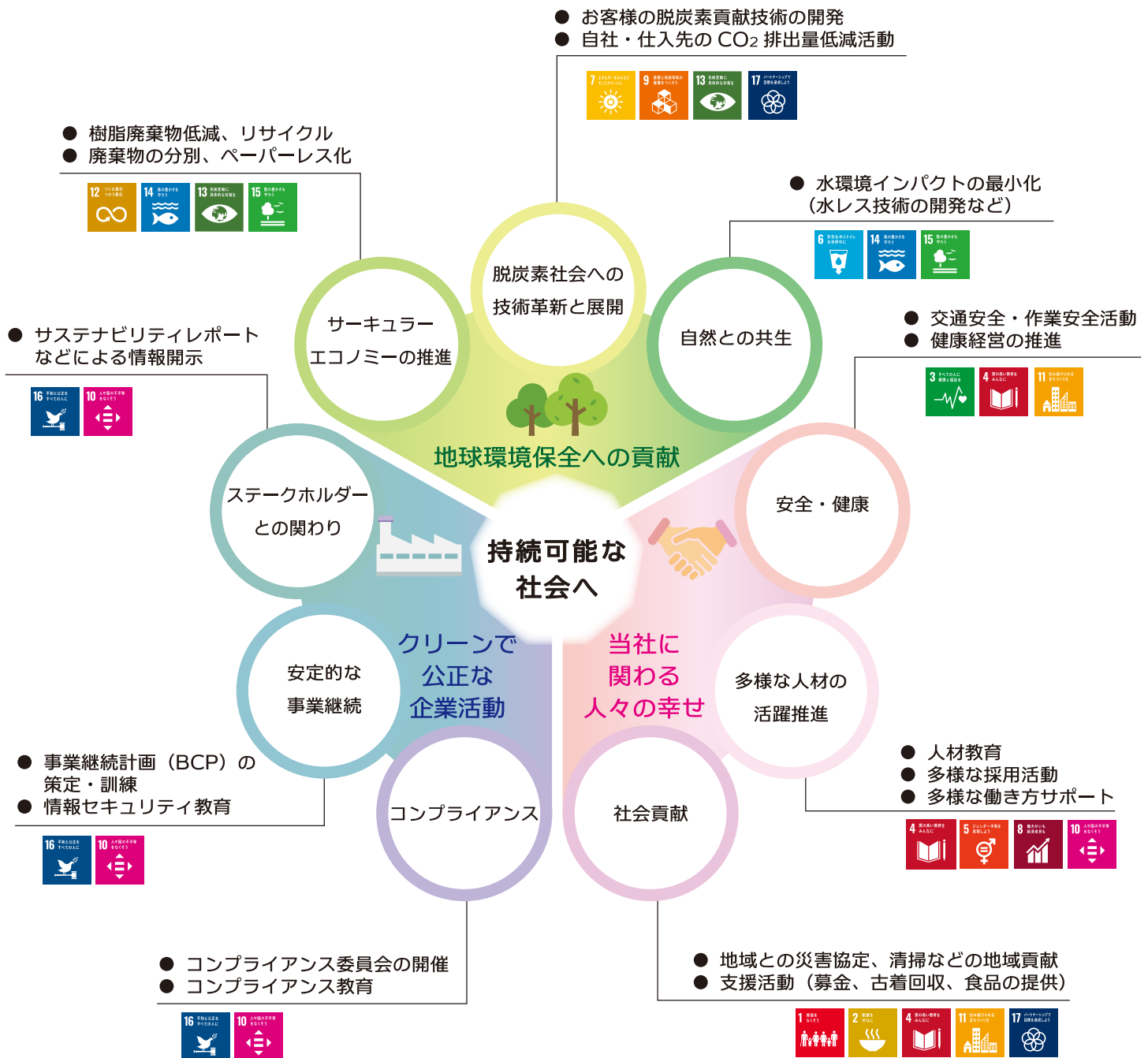
サステナビリティ推進室が中心となり、各関係部署と連携して活動を推進しています。月に1回開催されるサステナビリティ推進会議は、社長以下役員と各部長が出席し、議論や検討が行われています。



トリニティ工業の サステナビリティ

取り組むべき課題

トリニティ工業は、持続可能な社会の実現に向け ①地球環境保全への貢献 ②当社に関わる人びとの幸せ ③クリーンで公正な企業活動 の3つを重要な分野とし、それぞれの分野の取り組みについて整理しました。



環境

環境基本方針

- 1 国、地方自治体などの環境法規等を遵守するとともに、自主管理基準の目標を定め、達成することで、環境保全の向上に努める。
- 2 当社の保有技術を更に向上させ、環境に配慮した製品技術開発に努め、排出物・廃棄物の発生やエネルギー消費量の少ないモノづくりに継続的に取り組む。
- 3 生産活動が環境に及ぼす影響を予測・評価し、一人ひとりの自覚と責任において生産工程の自主管理に努め、環境に配慮した取り組みを推進する。
- 4 より良い地球環境の実現をめざし、企業活動のみならず、良き企業市民として社会や地球に貢献する為、社内の力を結集し、環境保護にも積極的に取り組む。

事業所別環境方針

本社・設備事業部 環境方針

本社・設備事業部は、塗装設備のシステム設計、技術開発を通して地球環境の保全・保守を第一義に取り組む。

1. 各地域の法令・条例・協定を遵守する。
2. 設備システムが与える環境インパクトを評価し設計を行う。
3. 設計から調達・施工・調整・顧客への引き渡しまで、資源の無駄使いを抑え、エネルギーの軽減に努める。
4. 環境内部監査を行いマネジメントの機能が有効に働いているか定期的に審査を行う。
5. 事業部署に対して環境保全教育を継続的に行う。
6. オフィス内の4Sを図り、省エネと資源リサイクルを推進する。

部品事業部 環境方針

豊田工場

当地において、自動車部品の製造ならびに塗装設備事業を行なうにあたり、従業員一人ひとりの自覚と責任において環境汚染を防止し、関係仕入先とも連携を取りながら、環境保全への継続的改善に取り組む。

1. 国・愛知県・豊田市との法令・条例・協定を遵守する。
2. 豊田工場周辺地域の良好な環境の保全に努める。
 - (1) 矢作川水系水質保全の為に排出水の適正処理と自主管理基準の維持・管理
 - (2) 地域住民の快適な生活を守る為の騒音の防止
 - (3) 燃焼排ガス発生設備の維持管理による大気汚染防止
 - (4) 豊田工場敷地内の緑化推進
3. 資源枯渇・地球温暖化に対応する為、省資源・省エネルギーに努める。
 - (1) 生産設備改善・節電活動によるエネルギー消費量の削減
 - (2) 生産工程での排出物減量と再資源化の推進による廃棄物低減
 - (3) 仕入先への環境負荷低減の展開
 - (4) 部品設計・設備設計段階での環境への配慮
4. 消費資材の環境影響評価を行い、有害物質使用の防止に努める。

三好工場

当地において、自動車部品の製造を行なうにあたり、従業員一人ひとりの自覚と責任において環境汚染を防止し、関係仕入先とも連携を取りながら、環境保全への継続的改善に取り組む。

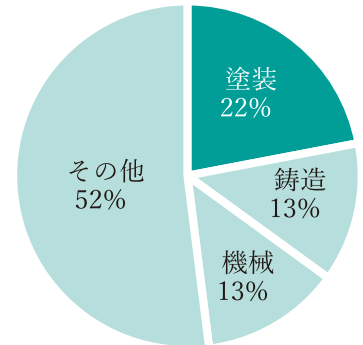
1. 国・愛知県・みよし市との法令・条例を遵守する。
2. 三好工場周辺地域の良好な環境の保全に努める。
 - (1) 地域住民の快適な生活を守る為の悪臭の防止
 - (2) 燃焼排ガス発生設備の維持管理による大気汚染防止
 - (3) 三好工場敷地内の緑化・美化推進
3. 資源枯渇・地球温暖化に対応する為、省資源・省エネルギーに努める。
 - (1) 生産設備改善・節電活動によるエネルギー消費量の削減
 - (2) 生産工程での排出物減量と再資源化の推進による廃棄物低減
4. 消費資材の環境影響評価を行い、有害物質使用の防止に努める。

環境



設備部門

環境に配慮した設備開発と展開

自動車製造工程別 CO₂ 排出割合

塗装工程と主な環境技術

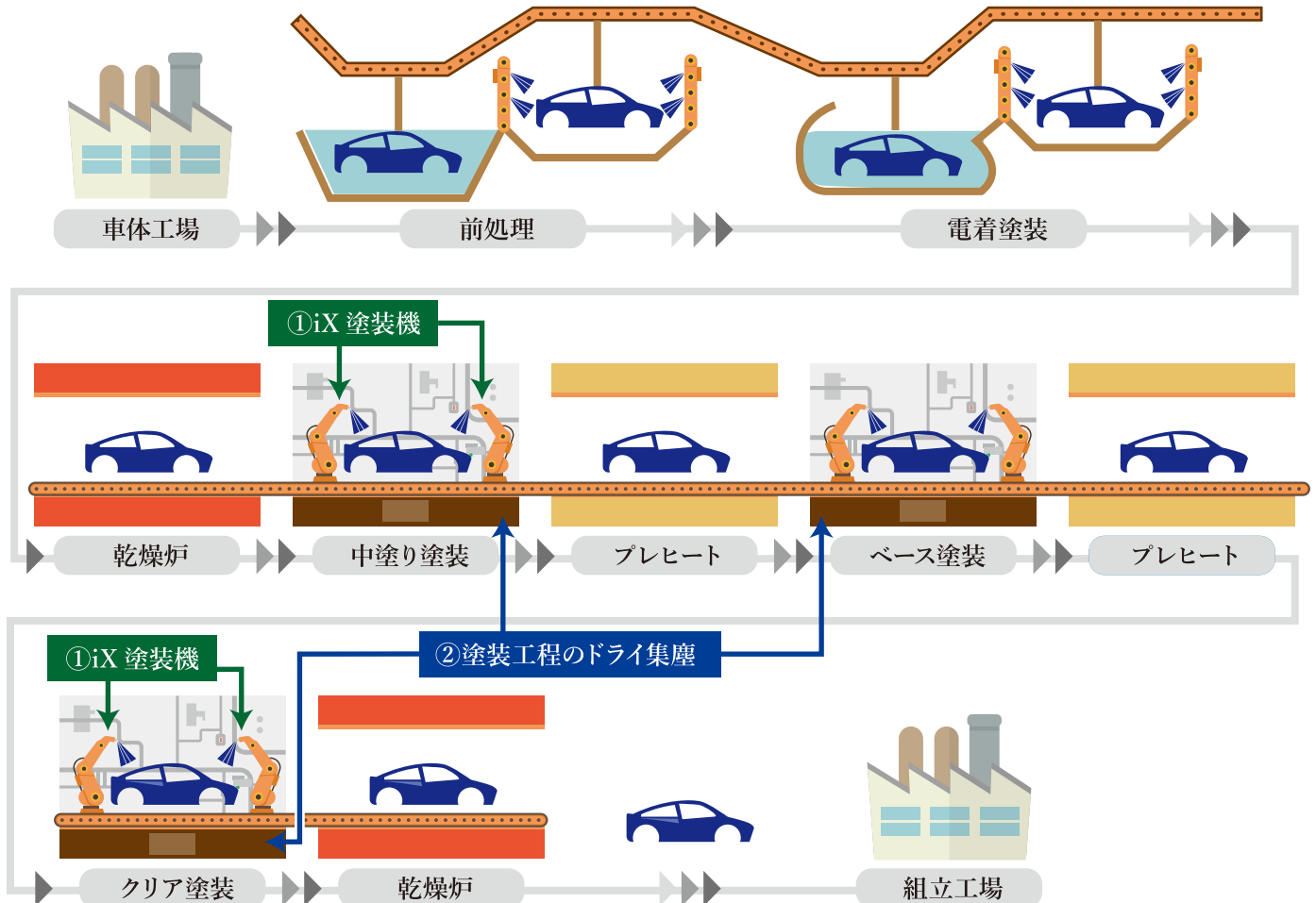
CO₂ 排出量と水使用量を抑えた

エンジニアリング技術で地球環境保全に貢献

自動車製造工程の中でも CO₂ 排出割合の高い塗装工程を担う会社として、前処理から上塗り・乾燥までのすべての塗装工程において、当社ならではの環境にやさしい先進技術を提供し、お客様の工場の環境負荷低減に貢献しています。

塗装には、製品の表面を保護し、美しく仕上げるため、様々な工程があります。例えば、お化粧品には、洗顔、基礎化粧、化粧下地、ファンデーションなどがあるように、塗装工程にも洗浄、下塗り、中塗り、上塗り、乾燥などの工程があり、それぞれの工程で水、薬品、空気などの加熱・冷却が必要となるなど、多くのエネルギーが必要となります。これらの工程においてエネルギー使用量を低減したり、水レス化を実現したりする技術・設備を開発し、提供しています。

当社における環境に配慮した主な塗装設備



設備
部門

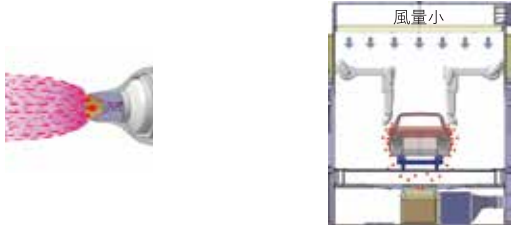
環境に配慮した設備開発と展開

熱・水・空気の総合エンジニアリング会社である当社として、環境に配慮した設備開発とその設備の提供で、お客様のCO₂低減に貢献。お客様とともに地球温暖化防止に取り組んでまいります。

環境に配慮した設備開発と提供で、お客様のCO₂低減に貢献

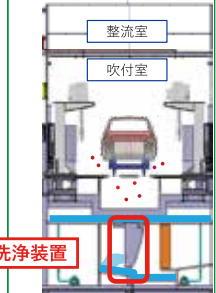
① 超高塗着エアレス塗装機（iX 塗装機）

静電気を活用した先進技術で、世界最高水準の塗着効率を実現

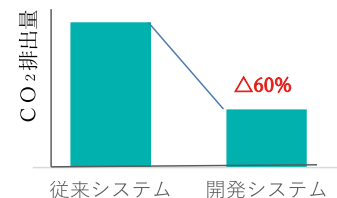
従来 エアスプレー式塗装機	新開発 エアレス静電塗装機
塗着効率 60～70%	塗着効率 95%以上
※自動車ボディの例  風量大 塗料ミストの跳ね返りが多く、塗着効率が低い 余分なミストが多い ⇒ 多めのブース風量で排気する必要がある	 風量小 塗料ミストの跳ね返りがなく、塗着効率が高い 余分なミストが少ない ⇒ ブース幅も狭くでき、ブース風量抑えられる

② 塗装工程のドライ集塵（水レス化）

高効率フィルタの開発により水を使用しない集塵装置を実現

従来ブース	新開発 ドライブース
 整流室 吹付室 洗浄装置 塗料ミストを水にあてて集塵する 洗浄集塵 使用した水をきれいにし、循環させる必要がある	 整流室 吹付室 高効率フィルター 高効率フィルターによる乾式集塵 水処理が不要になる

超高塗着塗装とドライ集塵の技術を組み合わせた上で、空調エアのリサイクルおよび、レイアウトの工夫による工程短縮等で、大幅にCO₂低減が可能となります。



第 69 回（令和 4 年度）大河内賞*「大河内記念生産特賞」を受賞

トヨタ自動車株式会社殿と共同で「超高塗着エアレス塗装を基点とする CO₂ 削減自動車塗装システム開発」にて「大河内記念生産特賞」を受賞しました。今後も、当社の技術力で地球環境問題へ取り組み、持続可能な地球・社会へ貢献してまいります。



*大河内賞とは、故大河内正敏工学博士の功績を記念して、公益財団法人 大河内記念が、生産工学、生産技術、生産システムの研究並びに実施等に関するわが国の業績で、学術の進歩と産業の発展に大きく貢献した顕著な業績を表彰する伝統と権威のある賞です。

環境



部品部門

自動車部品生産における環境負荷低減活動

ISO14001 を活用した環境マネジメント

適用範囲：自動車用部品及び機械装置の製造

当社は、豊田工場・三好工場の2事業所で自動車部品を中心とする生産活動を行っており、製品の製造やサービスの提供などによる環境への負荷を最小限にすることは、企業としての責務と考えております。こうした環境負荷低減活動を継続的に実施するべく、環境マネジメントに関する国際的な規格である ISO14001 の認証を豊田工場においては2000年に、三好工場は2008年に取得しました。そして、直近では2022年9月に更新審査を受審し、環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認しております。

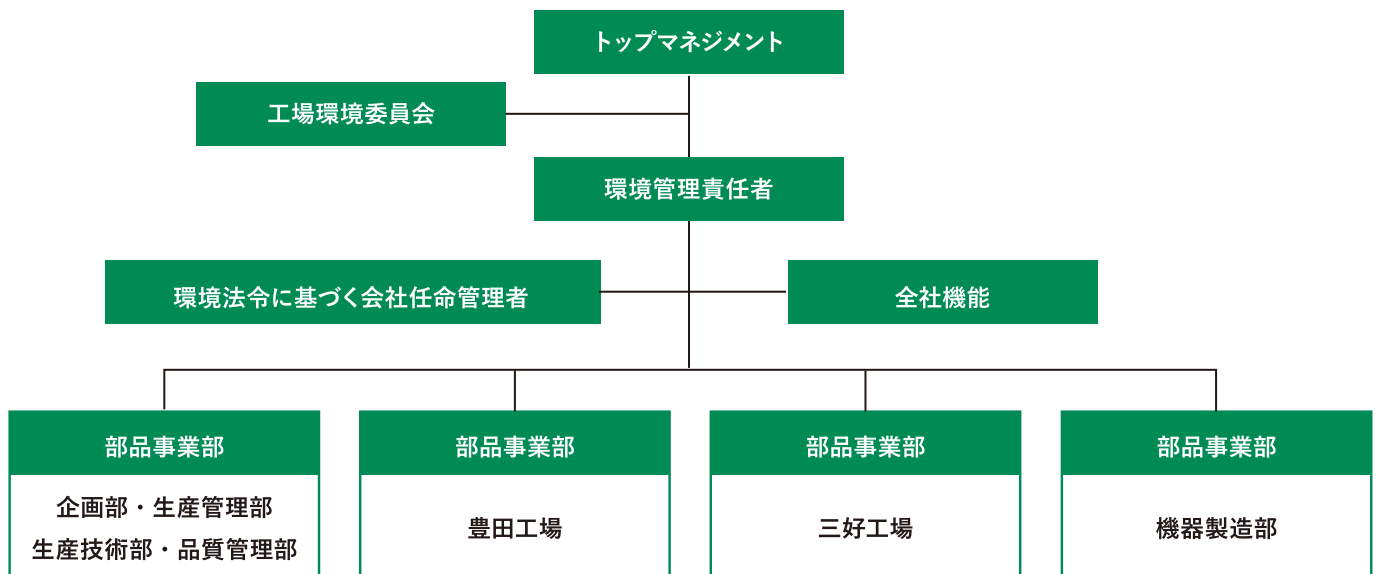
ISO14001 の仕様に則り、環境方針と目標を設定し、その目標に向けた各部門の取り組みを PDCA を回して推進管理し、達成状況については、工場環境委員会で共有し推進しています。ISO14001 の活動を通じて、更なる改善を図り、環境保全を推進してまいります。



ISO14001 の審査の様子



推進体制



環境



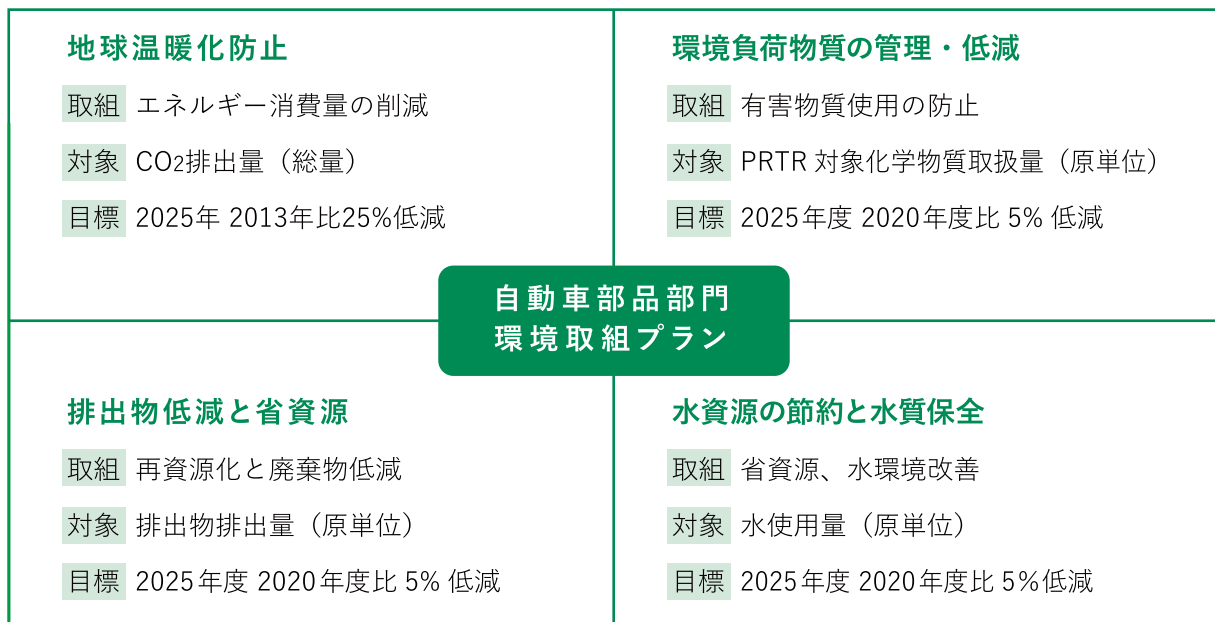
部品部門

自動車部品生産における環境負荷低減活動

自動車部品部門の環境取組プラン

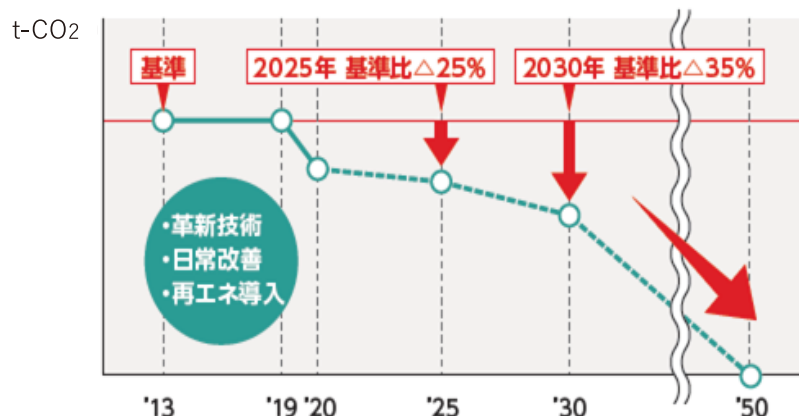
トヨタ自動車の関連会社で取り組んでいるオールドトヨタ第 7 次環境取組プランを受け、CO₂ 排出量、排出物排出量、PRTR* 対象化学物質取扱い量において、2021年度～2025年度の5年間の中長期目標を設定して活動しています。

* 人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質の排出・移動量の把握と届出を義務付ける制度



工場カーボンニュートラル ロードマップ

トヨタ第 7 次環境取組プランを受け、CO₂ 総排出量の低減目標を設定して活動しています。2019年に「工場 CO₂ ゼロチャレンジプロジェクト」を立ち上げ、2025年 25% 低減、その先の2030年 35% 低減を目指し、日常改善や新技術の導入、再エネの導入など、幅広く取り組んでおります。またその先も CO₂ 低減活動を続け、長期的には CO₂ 排出量実質ゼロを目指します。

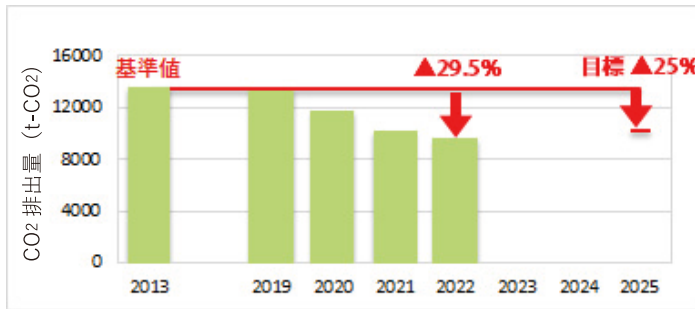


部品部門

自動車部品生産における環境負荷低減活動

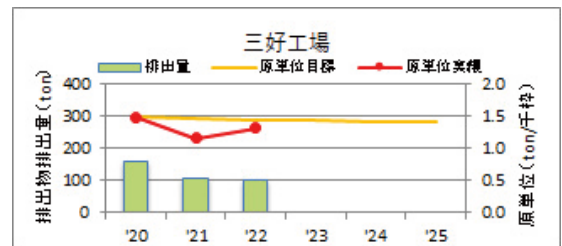
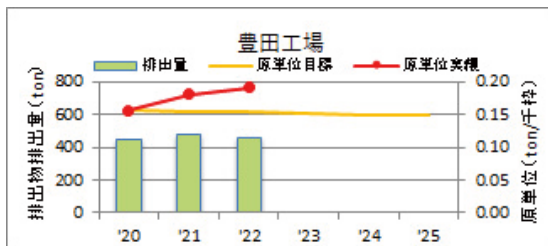
環境取組の結果

地球温暖化防止



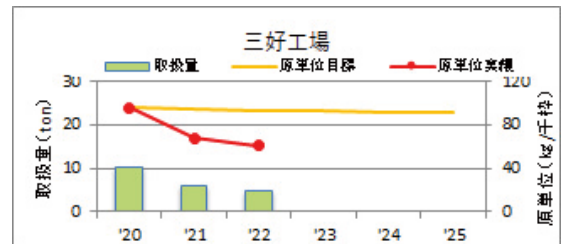
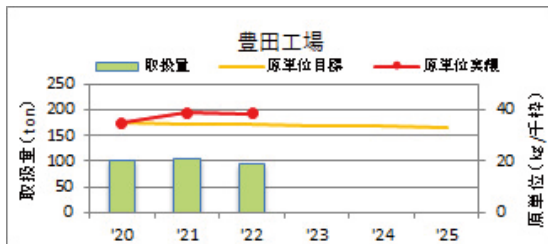
2022年は9,517t-CO₂と2013年比約29%減となり、2025年目標より低い水準にまで低減しました。これは、半導体や物流などのサプライチェーンひっ迫による生産量の減少によるところも大きいですが、設備の寄せ止めや太陽光発電の導入等の取り組みも着実に進めています。

排出物低減と省資源



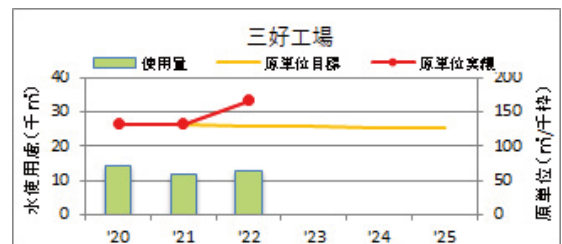
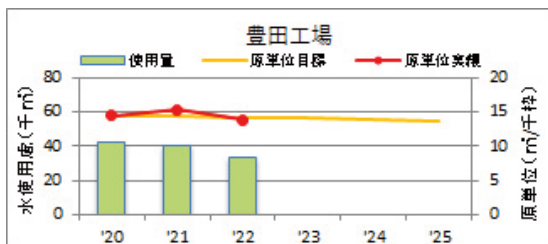
2022年度は、半導体不足等による生産変動が生産効率に大きく影響し、昨年度に比べ増加傾向にあります。豊田工場は、特に生産変動の影響を受け原単位が約5%増加しましたが、不良率低減等の改善を継続しています。三好工場は、原単位が約12%増加しましたが、塗装時のブツ不良を再塗装するなど不良低減に努め、目標を達成しております。

環境負荷物質の管理低減



豊田工場は、半導体不足等による生産変動が、生産効率に大きく影響しましたが、塗装の色替え時の洗浄の効率化、不良低減、塗装の塗り方改善などにより、対象化学物質の低減に努め、原単位はほぼ横ばいとなっています。三好工場では、クリア工程の洗浄回数の低減により取扱量を大きく低減でき、原単位も約11%減少となりました。

水資源の節約と水質保全



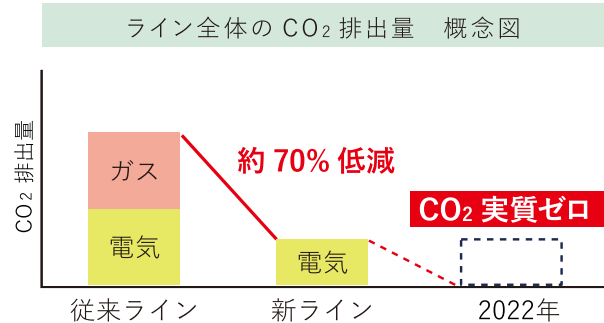
豊田工場は、設備の寄せ止めや、新ラインへの水使用量「ゼロ」の塗装ブース（ドライブース）の導入により原単位が約10%減少し、目標を達成しました。三好工場は、不良の原因となる粉じんを抑える為、ミストを使用したことなどにより水使用量が増加し、原単位が約20%増加しました。

部
品
部
門

自動車部品生産における環境負荷低減活動

オール電化塗装ライン新設による CO₂ 排出量実質ゼロを実現

2021 年に、豊田工場において設備事業部の技術と部品事業部のモノづくり技術を融合した、オール電化塗装ラインを新設しました。従来の塗装ラインのエネルギーは、電気とガスを使用していましたが、まずコンパクトブース化などにより、エネルギー使用量を低減するとともに、ヒートポンプを活用し、オール電化へのエネルギー転換を実現しました。従来のラインに比べ、CO₂ 排出量が約 70% 低減となりました。そして残りのエネルギーについて、2022 年度に再エネを導入し、CO₂ 排出量実質ゼロのラインを実現しました。



再エネ証書の発行料の一部は、障がい者の証書デザインアーティスト支援にあてられ、障がい者の自立を支援しています。

ブースのコンパクト化

ブースをコンパクトにしたことで、空調エネルギーが低減され、CO₂ 排出量低減

従来	新開発	効果
床置き塗装ロボット ブース断面積：9 m ² 	壁掛け塗装ロボット ブース断面積：5 m ² 	床置きから壁掛けにすることでブース断面が45%小さくなり、ブース空調が低減

ヒートポンプの活用

ヒートポンプを活用し、ガスから電気にエネルギー転換

	従来	改善後	効果
塗装ブース			
乾燥炉			

環境



部品部門

自動車部品生産における環境負荷低減活動

オンサイト太陽光発電設備の導入

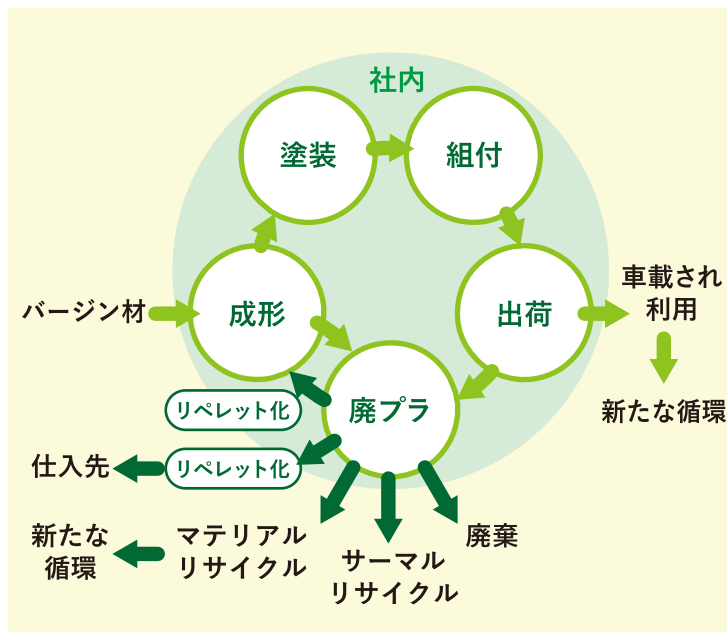
2022年11月、三好工場に太陽光発電設備を設置いたしました。三好工場の総電力使用量の約5%近くに相当する年間約15万3,000kWhを太陽光発電で賄うことになり、CO₂排出量低減に貢献しております。また、BCP（事業継続計画）の一環として、災害発生時等における停電の際の通信手段（スマートフォン等）などの電源確保に利用できるようになりました。



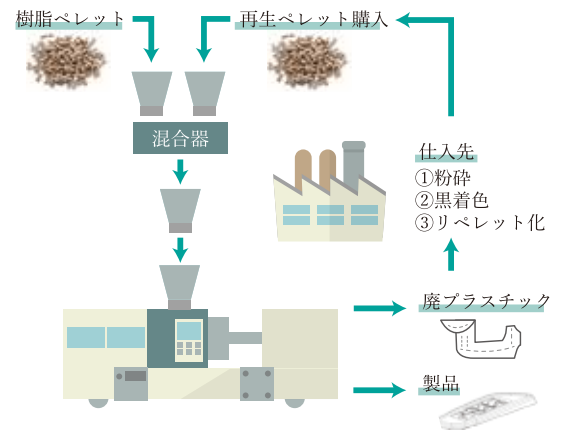
サーキュラーエコノミーの取り組み

大量消費・大量生産による廃棄物により、自然環境が汚染され、生態系にも甚大な被害を与えている状況を重く受け止め、サーキュラーエコノミーへの移行が重要と考えています。当社は、主に樹脂を原料とする自動車部品を製造する中で、生産工程でのサーキュラーエコノミーに取り組んでいます。

樹脂部品生産の現状の取り組み



リペレット化（廃プラの再利用）



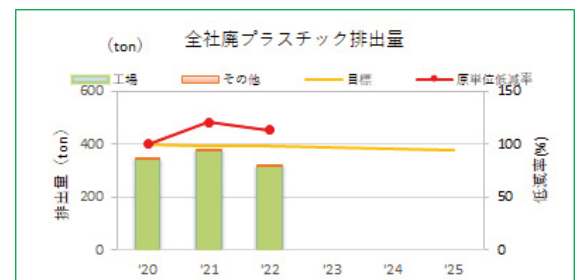
成形工程では、樹脂製品を金型で成形する際に発生するランナー（製品以外に残るプラスチック廃棄物）を再加工（リペレット加工）し、再度原材料に混ぜて再利用しています。今後も再生率の向上を図り、活動を推進してまいります。

プラスチック資源循環法への対応

2022年4月1日に施行されたプラスチック資源循環法を受け、プラスチックごみにおいても毎年原単位で1%低減の目標を設定し、活動を進めています。

2022年度は、基準年の2020年度と比較して、総量は約8%減少しましたが、原単位では約13%の増加となり、上記のようなリペレット化の取り組みをさらに推進してまいります。

また、プラスチックごみに関する教育動画を作成し、日常生活から廃プラ削減に取り組めるよう、従業員の意識向上活動にも取り組んでおります。



環 境



■ 自然共生の取り組み

近年、プラスチックごみによる海洋汚染問題や土壌汚染問題、森林の減少など、世界中で自然環境の悪化が問題となっています。自然環境の悪化により、生物にも大きな影響を与え、深刻な問題となっています。当社から排出する水や廃棄物などが生物に影響を及ぼさないように自然共生の取り組みを進めています。

WET 試験の実施

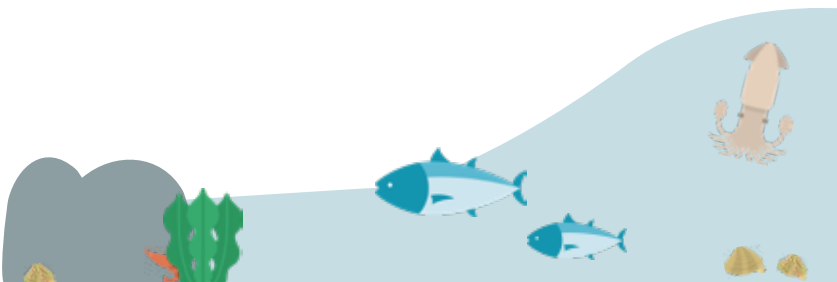
豊田工場で使用した水は、排水処理場で処理した後、法律で定められた排水基準より厳しい自主基準の下、近隣河川に放流しています。この評価に加え、生物多様性の観点から、近隣河川への水性生物への影響調査のため、WET 試験を実施しました。

WET 試験とは

一つの化学物質が基準以下であっても、複数の化学物質が合わさることにより、有害な影響を及ぼすことがあります。WET 試験とは、基準値をクリアした 2 種類の排水を合わせた排水に生物（ミジンコ）を 8 日間さらし、死亡率や産仔数を評価する試験方法です。



当社では、外部の調査機関を利用し、2023 年 6 月 14 日に放流水を採取し、WET 試験を実施しました。結果は「生物への影響はなし」ということが確認されました。



環 境



■ コンプライアンスと環境リスク

🍀 コンプライアンス遵守

▶ 産業廃棄物処理業者の現地確認

産業廃棄物の処理を委託しているすべての処理業者について、実際の処理の状況や書類の管理状況などを毎年、確認しています。新型コロナウイルスの感染防止対策を実施の上、2022年度も現地確認を実施し、問題ないことを確認しました。



処理業者の現地確認



🍀 環境リスク低減活動

▶ 環境異常処置訓練

環境事故発生時の迅速な情報伝達と対応を図る為、環境リスクのアセスメントを行い、起こりうる状況を想定した訓練計画を立て、異常処置訓練を定期的に行っています。

① 廃水処理場より汚水漏洩を想定した訓練

2022年10月に実施した訓練では、「豊田工場の廃水処理場の配管より汚水が漏れ出し、雨水側溝から汚水がオーバーフローした」という想定で実施しました。作業手順の確認や実際に側溝に土のうなどでせき止める訓練、放流口のバルブを止める訓練を行い、万一の場合に備えています。



汚水漏洩防止の説明会



放流口前のバルブ開閉訓練

② 塗料運搬中に漏洩を想定した訓練

2023年2月に実施した訓練では、「台車で塗料を運搬中、塗料缶が倒れて塗料が雨水側溝へ流れる」という想定で実施しました。作業手順の確認や実際に水を使って、吸着マットや土のうを活用して雨水側溝のせき止めの訓練を実施したり、ウェスを活用して塗料の回収の訓練を実施しました。



雨水側溝への塗料流入せき止め訓練

環境



■ 環境啓発活動

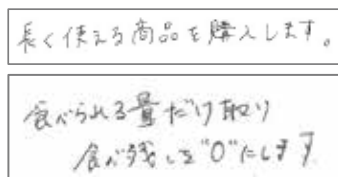
SDGs 強化月間

国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて、世界中で取り組みが進む中で、当社においても活動を推進しております。毎年11月を「SDGs 強化月間」とし、社員一人一人が「SDGs」について、自ら考え・行動するため、様々な活動を企画し、実施しました。

▶ SDGs 強化月間の主な取り組み内容

① 私の SDGs 宣言

従業員一人一人が、「SDGs」を自分事と考え行動できるように、仕事や家庭で実践できるSDGsを宣言し、意識向上を図りました。



② 標語・ポスター募集によるコンテスト

SDGsの取り組みを従業員に広く知っていただくため、標語やポスターを社員の皆さんとのご家族から募集し、啓発活動に使用しました。応募作品の中から最優秀賞と優秀賞を選び、表彰を行いました。



環境月間

毎年6月を「環境月間」とし、環境意識向上活動を計画しています。2022年度は、4月にプラスチック資源循環法が施行されたこともあり、海洋汚染問題に関する動画の配信など、一人一人が「自分ごと」として考えて取り組めるように活動を推進しています。

▶ 環境月間の主な取り組み内容

① プラスチック資源循環法に関する動画配信

「プラスチック資源循環法」が2022年4月に施行され、教育の一環として動画を作り、社内配信を実施しました。動画視聴後には理解度チェックを実施しています。



② サステナブルシーフードの提供

興味をもつきっかけになるように、MSC認証やASC認証を取得した水産物である、サステナブルシーフードを使ったメニューを社員食堂で提供しています。



教育

SDGsについて一人ひとりが理解し、活動できるように、新入社員にトリニティのSDGsの取り組みについて教育を実施しました。また、各階層別教育にもSDGsの内容を織り込み、全社的に意識向上を図っています。



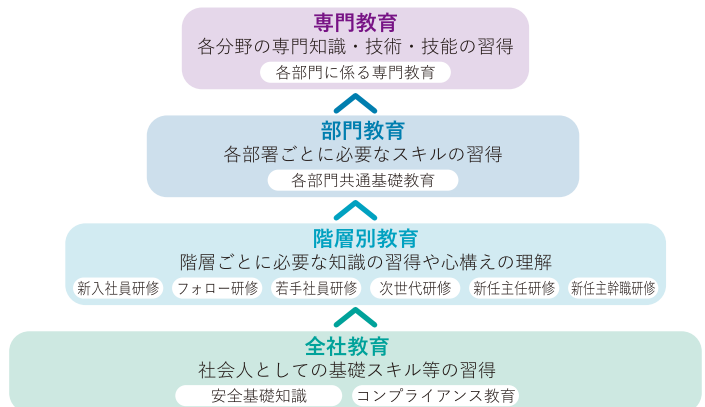
社 会



■ 人材

人材育成

当社は、中長期的な視点からの人材育成が会社の基軸と考え、たくましい人材（＝自立心を持つプロフェッショナル集団）の育成を図っています。その実現に向けた社内教育体系として、基礎知識習得の「全社教育」、階層ごとに必要な知識を習得する「階層別教育」、各部門の基礎知識向上を図る「部門教育」、さらに各部門内の専門知識向上及び技能向上を図る「専門教育」に取り組んでいます。



ワークライフバランス

当社はフレックスタイムの活用やノー残業デーの設定、振替休日制度の他、有給休暇の計画的取得促進に取り組んでいます。また、育児・介護休暇制度の拡充や、育児に伴う短時間勤務制度など、社員各々の事情に合わせて柔軟に働ける制度を整え、いわゆる「パパ育休」をはじめ、ワークライフバランスに向け、制度の積極活用を勧めています。

育児休業	最長でお子さんが3歳になるまで休業することができる
短時間勤務制度	お子さんを出産し、育児休業から復職したときから小学校3年生終了まで、勤務時間を短縮することができる
職群変更制度	一般職から総合職への変更ができる
カムバック制度	配偶者の転勤・育児介護のためやむを得ず退職した社員が復職できる
フレックスタイム制度	コアタイム（10:00－15:00）を含めて勤務時間を前後に調整することができる

多様な人材が活躍できる職場づくり

▶ 女性活躍推進

より多くの女性の方に活躍いただけるよう、新卒採用につきましては、会社 HP での女性社員の活躍等の掲載や女性先輩社員との座談会等を実施し、女性社員の採用強化に取り組んでおります。

また、面談などを通じた産休・育休復帰後の不安解消や、仕事と育児の両立をしやすい環境整備、職種・階級に合わせたスキルアップのサポート、子供の成長に伴う出費への経済支援を行っています。

さらに、出産、配偶者の転勤等を理由に退職する社員に向けたカムバック制度導入や法定を上回る育児休業及び短時間勤務制度の充実を図ることで、職場環境の魅力向上に努めてまいります。そして、将来の女性管理職登用に向け、優秀者の選抜と重点的な育成にも取り組んでまいります。

	目標（～2025年度）	実績（2022年度）
女性社員比率	18.0%以上	15.6%



▶ 外国人雇用

百年に一度の大変革期を担うグローバル人材を育成するため、近年では外国人留学生採用の強化に取り組んでおります。

▶ 障がい者雇用

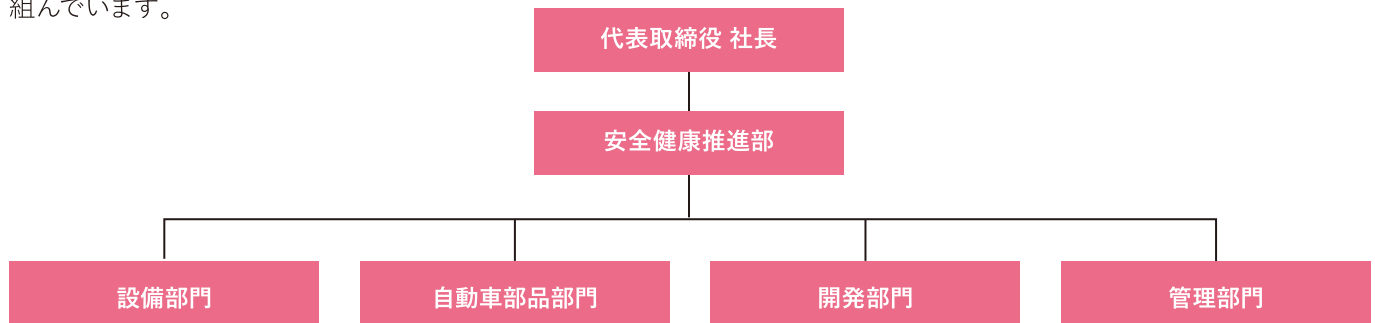
ダイバーシティを意識した職場環境づくりを行うことで、業務の効率化や生産性の向上に繋がると考え、積極的な障がい者雇用にも取り組んでおります。



■ 労働安全衛生

安全衛生理念

安全は経営の根幹であり、「安全なくして作業なし」の精神の下、働くすべての人々の安全と健康管理を最優先として、社長直轄の安全健康専任部署を設け、『安全第一の職場環境・風土づくりの構築』に組織的・継続的に取り組んでいます。



安全活動

トリニティに関わるすべての人々の安全のため、日々安全への取り組みを行っています。

	取組内容	
全般	防災教育・訓練の実施 トップを含めた定期的な現場巡視 歩行災害防止に向けた構内ルール（ポケテナシ）の徹底 安全に関する知識の習得と体感ができる「安全道場」の常設	 ポケテナシの徹底
設備部門	作業責任者のレベルアップ勉強会の開催 VR（仮想現実）を使用した危険体感学習の実施 工事の事前確認会、安全大会、振り返り会の実施 安全パトロール活動の継続的な実施	 VRによる体感学習
自動車部品部門	作業安全体感教育の実施 リスクアセスメントによる、職場の潜在的な危険性または有害性の発見と低減 ヒヤリハット提案と課題カ所の速やかな改善 管理者の安全専念時間の確保	 現場でのリスクアセスメント

交通安全活動

	取組内容	
全般	体感型運転教育の実施 上長による同乗運転の実施と運転改善指導 運転適性テストの実施 危険予知トレーニング 業務用車ドライブレコーダーの解析と指導 定期立哨活動	 体感型運転教育



健康

基本的な考え方

会社を支える社員の健康保持増進は重要な経営課題であり、健康経営を推進することで社員一人ひとりがパフォーマンスを発揮し、会社と社員の持続的成長につなげられるよう、健康経営に取り組んでいます。

トリニティ工業 健康宣言

当社において最も重要な財産は「社員」です。

社員一人ひとりとご家族の皆様が、心身ともに健康で豊かな生活を送られることは、『良い品』『良い仕事』を創造する原動力となり、『お客様のよろこびと感動』を生み出し、社会貢献に繋がるものと考えています。

その実現に向けトリニティ工業は、明るく楽しく元気よく、いきいきと働ける会社づくり、人づくりに全力を挙げて取り組むことを、ここに宣言します。

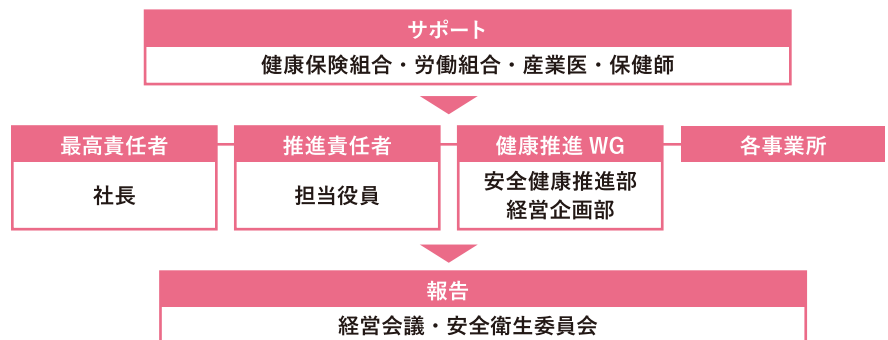
2019年9月1日

トリニティ工業株式会社

代表取締役社長 玉木 利明

推進体制

社長を最高責任者とし健康経営推進体制を整え、健保組合や労働組合、あるいは産業医や保健師といった専門家とも協力しながら取り組みを進めています。



外部評価

健康経営に向けた各種の取り組み状況が評価され、外部機関から「健康経営優良法人」をはじめとする各種の認定・認証をいただいております。

	内容	認定年
	- 健康経営に取り組む優良法人を認定 - 経済産業省、日本健康会議が実施	2020年～2023年
	- 従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組を行う企業を認定 - スポーツ庁が実施	2022年～2023年
	「スマートミール®」を提供する店舗や事業所を認証 「健康な食事・食環境」コンソーシアムが実施	2021年～2023年

具体的な取り組みは21ページをご覧ください。



健康

主な取り組み

「気づき」、「知識」、「支援」の3つのアクションで従業員の健康保持増進をサポート

気づき

健康診断と受診後の対応

- 海外駐在員も含めた社員全員の定期的な健康診断の実施
- ご家族の健康診断費用補助
- 二次検診費用の補助、受診勧奨
- 特定保健指導の確実な実施
- 胃がん、大腸がん検診を定期健康診断の受診項目に組み込み実施



メンタルヘルス対策

- ストレスチェックの実施と高ストレス者のフォロー

知識

女性特有の疾病対策

- 乳がん、子宮頸がん検診受診希望者への実施
- 女性特有の健康課題に対する知識習得を目的としたセミナーの開催



セミナーの様子

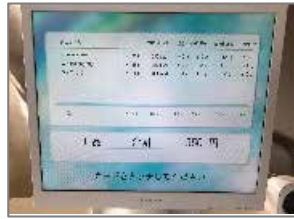
メンタルヘルス対策

- 入社時、入社後3年目のセルフケア教育
- 主任、主幹職昇格時のラインケア教育

支援

食習慣改善

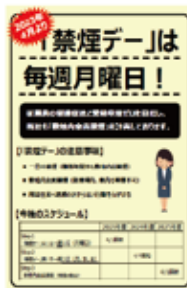
- 社員食堂でのスマートミールやハーフサイズメニューの提供
- 社員食堂の全てのメニューにカロリー表示
- 社内自販機のカロリー表示、野菜ジュース、栄養補助食品等の導入



スマートミールとカロリー表示

喫煙対策

- オンライン禁煙プログラム費用を健保と共同で全額補助
- 全事業所屋内全面禁煙（実施済み）
- 敷地内全面禁煙に向けた段階的な取り組み（現状：毎週月曜禁煙）
→2025 年全日敷地内全面禁煙）



運動習慣化に向けた取り組み

- 朝のラジオ体操、お昼のストレッチ
- 歩数計アプリを活用したウォーキングイベント（年2回）
- 健康保険組合主催の健康づくりキャンペーン*への参画（毎年9月～11月）
*「ヘルスマチャレンジ」：運動習慣、食事改善、歯のケアの取り組み
- 社内スポーツイベントの実施（ソフトボール、ゴルフ）
- 社内ポータルサイト等を活用した啓発活動（オフィス、自宅で実施可能な運動メニューの紹介等）



朝のラジオ体操



ウォーキングイベント



スポーツイベント

その他

感染症対策

- 基本方針や対応マニュアルの策定
- 海外赴任前教育、予防接種の実施
- インフルエンザ予防接種の社内実施
- 社員と健康保険組合加入のご家族（1～15歳まで）のインフルエンザ接種費用補助

メンタルヘルス対策

- 保健師による相談窓口の設置
- 不調者、復職者対応（産業医、保健師との定期面談）

社 会



■ 社会貢献・コミュニケーション活動

◻ 地域貢献活動

▶ 近隣地区自治会との交流会・災害時の協定締結

豊田工場では、近隣地区自治会（桂野町、中垣内町、加茂川町）の役員の方々をお招きし、毎年懇談会を実施しています。新型コロナウイルスの影響で開催を見送っていましたが、2023 年度は 4 年ぶりに開催しました。ご出席いただいた区長様からは、トリニティの環境への取り組み、交通安全立哨等の地域活動にご理解いただき、感謝の言葉をいただきました。また、災害時の避難場所として豊田工場をご利用いただく協定を締結し、避難いただいた際の防災備品についても準備しています。備品については、使用期限を考慮して一部豊田市の社会福祉協議会を通じて寄付し、廃棄とならないよう留意しています。



近隣自治会との意見交換の様子



災害時の協定書



防災備品（社員及び地域住民用）

▶ 地域美化活動

地域の環境美化活動に合わせ、毎年、本社・豊田工場周辺の草刈り及び清掃活動を実施しています。



事業所周辺の清掃活動

▶ 交通安全立哨

安心安全な地域づくりに向け、また、自動車関連会社として、交通事故撲滅のため、会社付近の交差点で交通安全立哨活動を実施しています。



事業所付近での交通安全立哨

▶ 『まちかど救急ステーション』の設置

本社・豊田工場・三好工場に AED を設置し、救急の際に使用できるよう、消防署による、普通救命講習を受講しています。また、本社と豊田工場においては、豊田市の「まちかど救急ステーション」に登録し、地域の方がいつでもご利用できる状態としております。



『まちかど救急ステーション』表示と AED

社 会



■ 社会貢献・コミュニケーション活動

社会福祉活動

▶ フードドライブ

廃棄食品を無くすため、社員の家庭で余っている食品を集めて、福祉団体や NPO 法人に寄付する「フードドライブ活動」に参加しました。2022 年度は 6 月と 10 月の年 2 回参加し、缶詰やインスタント食品、お菓子などを豊田市社会福祉協議会を通じて、生活困窮者や子ども食堂の支援に活用していただきました。



社内で集まった食品

▶ 古着収集ボランティア

2022 年 11 月の「SDGs 強化月間」の一環として、新たに古着収集ボランティアに取り組みました。社員の家庭で使わなくなった古着を集めて、認定 NPO 法人「ブリッジエーシアジャパン」の古着回収プログラム「フルクル」を通じて、ミャンマーやベトナムの方への支援活動に役立ててもらおうというものです。ダンボール 26 箱分（約 180 kg）の古着が集まり、その売上金を学校建設や環境保全などに活用していただきました。



古着回収の様子

地域行政との協働

▶ 豊田市『環境の保全を推進する協定』

当社は昭和 60 年に豊田市と「公害防止協定」を締結し、公害防止に努めてきました。

平成 21 年には「環境の保全を推進する協定」に名称を改めて再締結し、平成 31 年 3 月 31 日に更新しています。

具体的には、毎年、敷地境界の振動や騒音、臭気を測定し、基準値内を維持していることを確認しています。また、「緑のカーテンプロジェクト」に参加し、朝顔やゴーヤなどを植えて緑のカーテンを設置しています。



境界値における環境測定



緑のカーテン

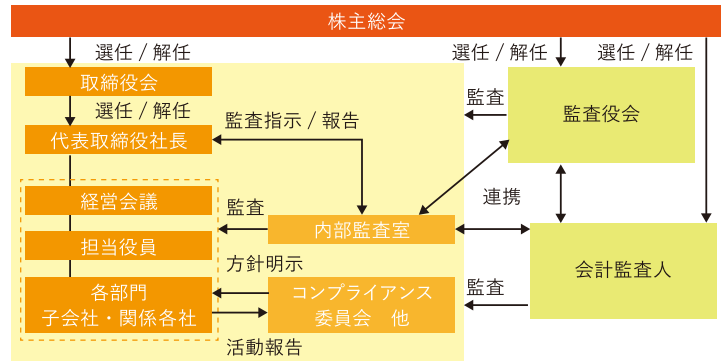
ガバナンス



コーポレートガバナンス

当社は、社是「信頼と創造」を理念に、株主の皆様やお客様をはじめ、取引先、地域社会、従業員等のステークホルダーとの良好な関係を築き、お客様に満足していただける商品を提供することにより長期的な企業価値の維持向上を図ることが重要と考えております。こうした考え方の下、経営の効率性と企業活動の健全性・透明性を担保するため、コーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

具体的には、社外監査役が過半を占める監査役会による、取締役の職務執行状況の監査のほか、内部監査室による会社法・金商法監査そして各部署における自工程完結の考え方に基づくコンプライアンス活動を独立社外役員も参加するコンプライアンス委員会にて、チェックすることで複層的な取り組みを行っています。



コンプライアンス

基本方針

トリニティ工業株式会社及び関連子会社のすべての役員、社員、派遣社員等はトリニティグループで働く者としての誇りを持ち、以下の基本方針に従い、関連法令を遵守します。

経営トップは、個のコンプライアンス基本方針の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、関係者への周知徹底と社内整備を行うと共に、従業員の法令遵守の育成に努めます。

- 1 法令・規程遵守義務の履行
- 2 個人の尊重
- 3 企業活動による社会的貢献
- 4 環境への配慮

また、従業員に対しては、法令・社内規程の周知徹底及び意識向上に向けた取り組み、コンプライアンス違反・ハラスメントの未然防止活動などを行っています。

社内啓発	従業員対象のコンプライアンス教育の実施、 コンプライアンスに関する啓発ニュースの定期発行 (法令違反防止、ハラスメント防止など) 社内報、デジタルサイネージ等を活用した啓発メッセージの発信
社員の意識調査	モラルサーベイ（社員の意識・満足度等の調査）の実施
内部通報制度	ヘルプラインの設置・運用



コンプライアンス教育

リスク管理

大規模災害や感染症の流行、サイバー攻撃による機密情報漏えいなどのリスクに対し、子会社まで含めた社内体制の構築や従業員の意識向上に向けた取り組みを推進しています。

情報	情報セキュリティ体制の構築	BCP ^{*1}	行動マニュアルの整備
	機密管理規程に基づく社内管理体制の構築		避難訓練の実施 ^{*2}
			防火対策の点検
			災害備品の備蓄（地域住民用を含む）
			感染症予防品の備蓄
			安否確認訓練の実施（地震を想定）
			土砂・水害防止対策の実施

^{*1} BCP：Business continuity plan 事業継続計画緊急事態発生時に、企業が事業を継続したり、迅速な復旧を行うための方針、体制など

^{*2} 避難訓練とあわせてBCP観点の確認・連携の訓練も実施

グループ管理活動

子会社各社に対しては、当社役員を兼務役員として派遣しており、WEB会議システム等を用いて各社の取締役会に参加することで、定期的な意見交換・情報交換を行っています。また、地域会議など各社事業の振り返り・翌期の取組みを検討する場も定期的に設け、グループとしての内部統制強化を図っております。

第三者意見



一般社団法人
中部 SDGs 推進センター
副代表理事
百瀬 則子氏

2022 年は世界中で異常気象による災害が起り、またウクライナでの戦争が気候変動を加速させています。2020 年は新型コロナのパンデミックによる経済活動の停滞から CO₂ の排出量が減少しましたが、21 年には再び増加し、22 年には過去最高となっていました。こうした背景の中でトリニティ工業は、持続可能な未来に向けて設備部門と自動車部品部門において、自社だけではなく顧客の工場や自動車ユーザーの環境負荷低減も実現しています。更に 2021 年に策定した**サステナビリティ方針**を具現化した、「地球環境保全への貢献」「当社に関わる人びとの幸せ」「クリーンで公正な企業活動」と**ESG3つの重要分野**とその取り組みについて報告した**サステナビリティレポート 2023**を作成しました。そしてトップメッセージには「テクノロジーで地球にやさしい未来を目指します」とあり、技術の力で持続可能な地球・社会の実現を、力強く宣言されています。私はこのサステナビリティレポート 2023 の記載内容をインタビューや記録の点検により、トリニティ工業の事業及び環境・社会貢献活動が、持続可能な社会構築を目指したものであることを確認しました。

今年のトップニュースは、トヨタ自動車と共同で**大河内賞「大河内記念生産特賞を受賞」**したことです。この受賞は「**塗着効率 95% 以上という超高塗着エアレス塗装機の開発 水を使わないドライ集塵ブース等により CO₂ 排出量を 60 %削減**」によるものです。自動車製造過程で排出する CO₂ の 22% が塗装工程であり、トリニティ工業のこの画期的な技術が、設備を設置する顧客の脱炭素に大いに貢献していることを確認し高く評価します。

また、自社工場についても、2021 年に設備事業部と部品事業部の技術を融合した「オール電化塗装ライン」は、従来のラインに比べ CO₂ を 70%低減できていまし

たが、2022 年に再生エネルギー導入により、**CO₂排出量実質ゼロのライン**を実現しています。**トヨタ第 7 次環境取組プラン**の実現に大いに貢献すると期待しています。

サーキュラーエコノミーの取り組みも、樹脂素材の自動車部品製造過程で排出する端材を再加工して再生利用を推進しています。

そして今年のサステナビリティレポートには、自然共生の取り組みについても記載されています。豊田工場からの排水が、近隣河川の水生生物に影響が無いことを WET 試験により証明しています。今後はさらに生物多様性保全から、ネイチャーポジティブに向けて取り組むことを期待しています。

自動車部品生産拠点である、豊田工場及び三好工場においては、2022 年の ISO14001 更新審査を無事に完了しました。環境取組プランでは、「地球温暖化防止」「排出物低減と省資源」「環境負荷物質の管理・低減」「水資源の節約と水質保全」を目標に掲げ、2021 年から 5 年間での達成を目指しています。2022 年の結果は、CO₂ 削減や廃棄物排出量削減、化学物質低減については良好な結果でしたが、水使用量は三好工場で不良の原因になる粉塵を抑えるためにミストを使用したことなどにより原単位が増加しています。今後はさらに環境マネジメントシステムにより、環境負荷低減に努められることを期待しています。

「地球環境保全への貢献」に関しては事業だけではなく、コンプライアンスやリスク管理、社員への啓発活動とその成果も記載しています。社員の皆さんが、**地球環境保全を自分ごと**にして、持続可能な社会を目指していることが確認できました。

環境分野だけではなく、「当社に関わる人びとの幸せ」についての取り組みも報告されています。特に従業員福利に関しては、人材・労働安全衛生・健康の項目で従業員を大切にしたい制度や職場風土について、積極的に取り組んでいることが分かりました。また、社会貢献・コミュニケーション活動が年々広がり、**地域社会から信頼される企業**であることが確認できました。

また、ESG の重要な項目である「クリーンで公正な企業活動」のコーポレートガバナンス・コンプライアンスの基本方針・リスク管理について記載され、さらにグループの子会社に対しても内部統制が強化されていることを確認しました。

これからも、地球環境保全に貢献するものづくりと地域貢献活動、さらに「トリニティ工業に関わる人びとの幸せ」「クリーンで公正な企業活動」により SDGs に貢献し、持続可能な未来に活躍する持続可能なトリニティ工業であることを期待しています。



サステナビリティレポート 2023

＜お問い合わせ先＞

トリニティ工業株式会社

サステナビリティ推進室

TEL：0565-24-4818 FAX：0565-24-4822

当社ホームページより閲覧できます。

URL：http://www.trinityind.co.jp

報告書の対象範囲

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

一部、対象期間以前、もしくは以後の活動内容やグループ会社の活動内容も含まれます。

2023年12月発行